

エクス・アン・プロヴァンス滞在メモ

Aix-en-Provence Note

From 2016-08-01 to 2016-10-12

橋本努

8月は夏休みで、大学はすべて閉鎖されている。図書館やオフィスが使えないだけでなく、キャンパスに入るための入り口の門がそもそも閉まっている。部屋はメゾネットタイプ。二階部分がダブルサイズのベッド。一階にも大きめのソファベッドがあり、ここでも二人寝ることができる。

食事用のテーブルがある。その他、備え付けの備品は、一通り揃えられている。滞在二日目の昼に、部屋を整備する係の人が来て、備え付けられたものの「チェックリスト」をいっしょに見ながら、足りないものはないか、壊れたものはないかをいっしょに確認した。30-50項目くらいあったと思う。

家賃は、滞在する二ヵ月半の期間全体で、1,520ユーロ。最初に、ネット上の決済で300ユーロを事前に支払い、残りの1,220ユーロは、8月4日に現金で支払った。この支払いは現金のみようだ。

このメゾネットタイプのアパートは Pavillon 2 という建物の一階部分と二階部分に位置する。ゲートを入れて少し坂を上ると、左から Pavillon 3, 2, 1, 5, 6 と並ぶ。Pavillon 3 と 2 のあいだに、Theatre (劇場とアパート) の建物がある。この学生寮 (居住のためのスペース) は、大学のキャンパスよりも、もしかすると広い。カフェテリアも併設されているが、夏休み中は閉鎖している。Pavillon 4 は、3 の左隣だが奥の方にあって見えない。最初の受付は、Pavillon 1 の一階にある事務室でおこなう。英語が通じた。ここで鍵を受け取る。Free Wifi のパスワードも受け取る。

エクス・マルセイユ大学からの最初のメールの案内では、私の部屋は、早川先生の部屋のとなりであるように示されていたが、そもそも建物が異なった。早川先生のアパートは Theatre の二階、私の場合は Pavillon 2 の一階の S203。事前のメールでの案内では、宿泊先の住所にアパートの建物の名前が記されていなかった。こういうことは、フランスでは

よくあるようだ。

現金のキャッシングについては、エクス・アン・プロヴァンスの中心にある「ミラボー通り」にいくつかの銀行があって、それらの銀行のキャッシング・マシンで VISA カードから引き出すことができた。(銀行以外にも、両替を扱う店がある。)最初に立ち寄った銀行では、英語表示の案内がなく、フランス語、スペイン語、中国語などの六ヶ国語のみで、おどろいたが。

滞在二日目に、私は BNP Paribas Banque のマシンから、一度に引き出すことのできる最大限度額、600 ユーロを引き出した。カードは VISA。滞在三日目には、再度、同じ場所から 1,200 ユーロを引き出した。(一ヶ月に引き出すことのできる最大限度額は、私の VISA の場合、50 万円。)

買い物は、現金で支払う他、カードでも支払うことができる。インターネットで確認したかぎりでは、毎回カード支払いで買い物するよりも、カードを使って銀行で現金を引き出して、その現金で買い物をしたほうがレートがよいらしい。しかしカードを利用するとポイントがつくので、結局同じくらいの支払額になるのかもしれない。現金で支払ったほうが、お金を数える習慣がつくだけでなく、どれだけ使ったかをイメージすることができる。

コインランドリーは、フランスと語と英語の案内があるので、それにしたがって操作する。順番を間違えると、うまくいかない。最初に、洗濯物をいずれかの洗濯機に入れて、その後に、操作するための機械で、その洗濯機の番号を押す。その後に、その機械に 2.3 ユーロを入れる。2.5 ユーロ分のコインを入れると、画面の表示は 0.00 ユーロになり、お釣りが出る。一瞬、お金を騙し取られた気分になるが、そうではない。そこから洗濯機に再び移動して、その洗濯機の画面の操作で、「40 度、色物」のボタンを押す。すると洗濯機の動作が始まる。画面に 43 分と出るが、最後の 1 分が長いので、結局、50 分くらいかかっているのではないかと思うが、実際には全体で 43 分で終わっているようである。

掃除については、掃除機がないので、備え付けのほうきで一通り部屋を掃き掃除し、また持参したタオルの一枚を雑巾にして、水ぶきしている。一階の床はタイル。乾燥しているので、水ぶきしてもタイルはすぐに乾く。

大学の図書館は、入管許可書がなくても誰でも入ることができる。法・経済系の図書館は改築中で、そのなかの図書はすべて仮設の建物の中に収められていた。人文系の図書館は古い建物で、おそらく建て替える予定である。広くて静かである。日本語で読める雑誌は AERA のみ。

市立図書館は、バスターミナルのすぐ近くにある。警察署の隣というか奥に位置する。年間で20ユーロ程度を支払えば、会員になって利用することができる。滞在証明書が必要。CDやDVDもいろいろある。楽譜とDVDのセットで、楽器を練習するための教材がたくさんあった。

コピーについては、USBメモリーを持ち込めば、データをプリントアウトしてくれる店がある。COREPという店。aix@corep.fr ただし夏休み期間は閉店している。場所は、アパートとミラボー通りの中間で、Casinoやブーランジェリーなどのある通りの交差点の、向かい角。となりは理容店。

8月は夜10時くらいまで暑いですが、朝は16度くらいまで気温が下がるので助かる。クーラーはない。暑いのでドアを開けて寝ることもあるが、網戸がないので蚊がはいつてくる。蚊よけスプレーを買った。蚊は24度以下くらいになると動きが鈍くなる。

テレビは、20チャンネルくらい受信できるようである。それぞれのチャンネルを呼び出すときに、このチャンネルでいまどんな番組を放送しているのかについての案内が最初に表示されるよ。示されない場合は、しばらく待っていると示される。あるいはその番組を受信できないという表示が出る。例えばある放送局が、14:00-15:00の時間帯で、ある映画を放送する場合には、その番組を選んだときに、画面の上に、時間帯とタイトルが表示される。19:00-19:30の時間帯のニュースはすべてローカル。全国規模のニュースは19:30-21:00の時間帯。この時間帯を逃してしまえば、全国規模の重要なニュースに触れずに生活することになる。朝も全国ニュースはやっていないようだ。こうしたメディア環境のなかで、フランス人は脱中央化された意識をもって生活しうのかもしれない。

買い物は、スーパーのmonoprixでおおよそのものが揃う。

毎日、市役所前の広場では、朝市が開かれる。8:00-13:00。

Franprixというコンビニは、ここから歩いて10分のところにある。行きは下り坂。日曜日にも開いているので、そのときに使うと便利。Monoprixを含めて、日曜日は多くの店が閉まっているので要注意。

歩いて五分程度の場所に、Casinoというコンビニがある。早川先生の情報では5月に閉鎖されたとのことであったが、現在はオープンしている。Casinoはチェーン店。この店でも、一通りのものは揃う。ただmonoprixはBIOブランドのものを扱っているので、結局、monoprixでまとめて買ってしまう。Casinoのオレンジジュースは値段が高かった。

Casinoの並びにあるパン屋は、8月はまるまる一ヶ月間、閉店との案内。どうやら夏休み休暇をとっているようである。9月に開いて、タルトなどを食べたが、味は普通。量は多

め。

すし屋がたくさんある。15 件以上あると思う。高級店もある。私か住んでいる市よりもすし屋が多い。

キッチンのシンクについては、私の部屋の場合は流れがよく、水はたまらない。ただ洗面台のほうは、水が流れにくい。この流れにくさの原因は、水道管が、ある位置から真横になっているためではないかと思われるか、その他、シンクの水道管に網がなく、ゴミがすべて水道管に流れてしまうためではないかと思う。

町には、スポーツジムがある。Keep Cool という。学生向けは大学の近くにあるが、学生でなければ、中心街まで通う必要あり。8 月のみであれば、一ヶ月で 50 ユーロ。ハン先生とシム先生は、8 月中旬から一か月間、通い出した。場所はバスの駅と電車の駅の間くらい。一年間の会員になれば 260 ユーロくらいのものである。

グラネ美術館には別館がある。本館にセザンヌの絵がいくつかあるが、大作はない。別館にはピカソなど、現代絵画のすぐれた作品があるので、ぜひ訪れたい。

ベトナム料理のテイクアウト。Rifle Rafle という通りにあるお店。おいしい。揚げ春巻き。場所は momop' の近く。裁判所の北側の通りに面している。

Farinomanfou というパン屋のパンは絶品。通りがかって気になっていたのだが、三度目にしてようやく購入。皮の部分は豆の味がする。パン生地は深みがあり、薫り高い。ある種の東洋的な精神の境地に達するというか、これのみを食べて修行を続けていくように誘われるよう。ホームページをみたら、その理由が分かるような気がした。